

1. 評価報告概要表

作成日 2009年3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400342
法人名	有限会社ドリームサトウ
事業所名	グループホームもみじの里
所在地	富岡市妙義町上高田660-1 (電話) 0274-70-0222

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年2月9日

【情報提供票より】(平成21年 1月 13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4人 非常勤 7人 常勤換算	7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 200円/日・冷暖房費100円/	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
又は1日 800円				

(4) 利用者の概要(1月 13日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.9歳	最低	73歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	富岡総合病院 ・ 七日市病院 ・ 富岡成清医院 ・ 黒澤歯科クリニック
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、上毛三山の一つ妙義山東麓の静かな農村地帯にある。入居者が最も楽しみとしている調理には常に新鮮な食材を使用し、入居者の好みを取り入れた調理に職員が腕をふるい、時には菜の花を添え季節感を醸し出す等味付けや調理を工夫し、入居者に喜ばれる調理を職員相互が競い合っている。また、ホームに隣接した畑にイチジクを植栽しおやつしたり、新鮮な野菜を食卓に提供している。また、ケイルを栽培し、ケイルとバナナやリンゴのミックスジュースを毎日飲むことにより、入居者の健康維持に貢献すると共に入居者からは美味しいと喜ばれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価を全職員に供覧し、職員会議に諮り、改善課題である「地域密着型サービスとしての理念の見直し」、「市町村との連携」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」、「災害対策における近隣の人達の協力要請」等の改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、職員から聞き取りを行い管理者がまとめている。自己評価の意義や目的を全職員に伝え、全職員で自己評価を行い、その結果を踏まえ具体的な改善に取り組まれるよう期待する。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議に家族や地区委員が出席しやすいよう年度当初に年間の日程を決め、事業報告や外部評価結果とその改善状況等を報告し、意見交換を行っている。家族からは天気の良い日は出来るだけ外出の機会を持って欲しいとの要望があり、散歩や小学校の運動会の見物、花見を兼ねたドライブ等を行い入居者の気晴らしや楽しみの機会を多く持つよう支援している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情や意見を述べやすいよう雰囲気作りを努めると共に、日常生活や健康状況等は面会時に家族に伝え、病院の受診状況はその都度家族に伝えている。家族からは、「利用者本人の体調が少しでも変化がある場合などすぐに連絡があり、医療機関等の受診を進めてくれ、その結果を細かく連絡してくださる、認知症による言動の変化などもよく話してくれる」と感謝の言葉が述べられている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者は、公民館の写真展の見学に出かけたり、近隣のデイサービス利用者との交流を行ったり、小学校の運動会を見物している。また、ホーム主催の納涼祭や歌手の訪問時には、地域の人達を招待している。施設長は高田川の野火付けに参加したり、廃品回収に協力する等地域の人々との交流促進に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの目的や役割を管理者と職員で話し合い、既存の理念を見直し「利用者と職員が共に笑顔で過ごし、地域の方が自然と足を運ぶような温かみのある施設を目指します」という理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を朝の申し送り時に確認し、日々の生活の中で入居者・職員共々笑顔を絶やさず、事業所主催の納涼祭や歌手の訪問時に地域の人々を招待する等理念に沿った支援に取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者は、年数回開催される公民館の写真展を見に行ったり、近隣のデイサービス利用者や交流をしたり、小学校の運動会見物等に出かけている。また、施設長は、高田川の野火付けに参加したり、廃品回収に協力する等地域の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員から聞き取りを行い管理者がまとめている。自己評価の結果を職員と討議することなく、評価を活かした改善への取り組みはされていない。外部評価は、全職員に供覧し、毎月開催される職員会議で話し合い課題の改善に取り組んでいる。	○	全職員に自己評価の意義や目的を伝え、全職員で自己評価を行い、その結果を踏まえ具体的な改善に取り組まれるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各委員が出席しやすいよう会議開催日が年間行事計画の奇数月の第2土曜日に設定されている。会議開催通知を全家族に案内し、毎回出席している家族もいる。事業報告や外部評価等を議題に上げ、外部評価の改善事項について説明している。家族から天気の良い日は外に連れ出して欲しいとの要望があり、体調等を勘案し出来る限り散歩やドライブに出かけるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	更新書類等を施設長・ケアマネージャーが持参した折に、事業所の現状等を説明し、毎月開催される包括支援センターの会議には出席し情報交換等を行っている。市役所の担当者からは、生活保護者の入居について相談される等市との連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常生活や健康状況等は面会時に家族に伝え、病院の受診状況はその都度電話で説明している。新規採用職員は運営推進会議で紹介すると共に、利用料の請求時に紹介文書を同封し家族に伝えている。金銭管理は入居者が必要とする物品は原則家族が現物を持参し、例外的に立替金処理し面会時に領収書を添え精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談に関する市役所からの資料を家族に配布すると共に、面会時の会話の中で要望等を聞くよう努めている。	○	重要事項説明書に市役所や健康保健団体連合会等の相談窓口や電話番号等を記載する等、家族等にわかりやすくいつでも伝えられるような働きかけに期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規採用職員に対しては2ヶ月間は日勤とし、ベテラン職員を配置し指導している。夜勤に当たっては、2回は二人体制を取り、入居者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	インフルエンザやノロウイルス等疾病に関する資料を配布し、職場研修を行っている。管理者と計画作成担当者が外部研修を受講し、受講後は資料を供覧し、朝の申し送り時に研修内容を説明している。	○	管理者・計画作成担当者以外の職員についても、外部研修を計画的に受講する機会をもち、職員の資質向上を図られるよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、小規模多機能ホーム・グループホーム大会や職員相互派遣研修会に参加して、居室やトイレの名札等を車いすの目線に合わせ表示替えする等の改善に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームの見学を行い、入居者とお茶を飲み話しをして、ホームの雰囲気を知ってもらっている。また、空き室を利用した体験入居できる体制を取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	編み物や和裁を教えてもらったり、テーブル拭きや家庭菜園の野菜やイチジクの収穫を行う等日々の生活を通し共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、入居者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な入居者には話しかけてその表情から判断したり、面会時等に家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の希望や職員の意見を聞き、介護計画を作成している。作成された介護計画書を2通家族に送付し、意見等があれば再度作成し、ない場合には1通に署名・押印して返送してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、家族や職員の意見等を反映した介護計画の見直しを行うと共に、介護度の変化等に応じ随時現状に即した見直しを行っている。見直した計画は、家族に送付し署名・押印をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の送迎は原則家族対応であるが、状況により職員が対応している。個人で必要とする物は原則家族が持参することとしているが、時には買い物に付き合うなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診には、バイタルチェック表等必要な資料を提示している。ホーム協力医の受診には職員が送迎し、毎月1回の定期検診を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化しホームでの生活が困難と判断された時は、医師の診断に基づき入院等に対応すること、並びにホームでの看取りは出来ない旨を契約時に家族に説明し、了解を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人に関わる書類は事務室に保管し、守秘義務厳守の標語と注意事項が事務室に貼り紙されている。排泄介助やトイレ誘導等には入居者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけの徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は入居者一人ひとりの体調に配慮しながら本人のペースを大切に支援され、入浴を嫌がる入居者への誘導や入居者の希望を取り入れた養魚池への散歩や個別の買い物等一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新鮮な食材を使用し、入居者の好みを取り入れた調理やテレビやチラシのレシピを見て職員が独自の味付けや調理を工夫し、時には菜の花を添えて季節感を醸し出すなどの工夫を行い、入居者に喜ばれる調理をすることを職員相互が競い合っている。入居者と職員は、共にテーブルを囲み食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴日を設定し、支援している。入浴を嫌がる入居者には、ユズ湯や菖蒲湯、バスクリンを使用し、「今日は○○温泉だよ」等の声かけを行い誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブル拭きや居室の掃除、雑巾縫い、草花の手入れを入居者と共に行い、また編み物を教わる等入居者の経験を活かした活動場面をつくると共に、花見を兼ねたドライブ等楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の養魚池の金魚を見ながらの散歩をしたり、年数回開催している公民館の写真展の見学をしたり、花見を兼ねたドライブをする等できるだけ戸外に出かける支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵をかけているが、日中職員の見守りができる時間帯は鍵をかけないよう努めている。	○	運営者は、日中鍵をかけることの弊害を職員と話し合い、入居者の安全を確保しつつ、鍵をかけないケアについて工夫されるよう期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の指導のもとに、夜間を想定した避難・消火・通報訓練などを行っている。また、災害時における近隣の人達に対する緊急連絡網が整備され訓練に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の資格を持つ職員が、献立表の栄養バランスをチェックしている。食事摂取状況を毎日チェック表に記録し、水分は1日最低1000ccを目安に摂取している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの広々とした玄関にはソファー数脚が配置され、前の道を通行人と手を振り合う等入居者の憩いの場所となっている。また、居間兼食堂の天窓からは温かな陽光が差し込み、天井の扇風機が廻り、随所に季節の草花や観葉植物が配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	縫いぐるみや手鏡・家具等が持ち込まれ、家族との写真が飾られる等、入居者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう配慮されている。		